

## 日本脳炎ワクチン接種の現況

- ・ ブタの抗体保有率が常に高い九州、中国、四国地方等の居住者、あるいは近年、日本脳炎患者発生が多く認められた地域の居住者であって、日本脳炎ワクチンを1回も受けていない現在3~5歳の小児は、ワクチンの流通量も考慮した上で、夏になる前に、最初2回のワクチン接種(基礎免疫)をできれば接種したほうが良い。
- ・ この年齢での接種に関しては、定期接種の扱い(費用の補助、万一の健康被害の際の救済等)。

2008年(平成20年)5月27日 火曜日 徳島新聞

蚊の多い季節になった。蚊を媒介して人に感染する日本脳炎に要注意だ。予防にはワクチン接種が有効だが、早く接種率が確保され、50%以上に厚生労働省が定めた接種の積極的な勧奨を差し控えるように動く。

それ以降、県内でも定期接種者が急増している。安全性の高い新ワクチンの承認が大勢に押れる中で、効果を持てないワクチン接種を受けるかどうか戸惑いの声も聞かれる。

## 日本脳炎予防接種

### 県内幼児の接種者激減

定期接種の接種率は、平成17年度は約50%だった。平成18年度は約40%、平成19年度は約30%と、年々減少傾向にある。県内では、平成19年度は約20%と、最も低い水準に落ちた。これは、ワクチン接種の積極的な勧奨を差し控えるように動くためと見られる。

定期接種の接種率は、平成17年度は約50%だった。平成18年度は約40%、平成19年度は約30%と、年々減少傾向にある。県内では、平成19年度は約20%と、最も低い水準に落ちた。これは、ワクチン接種の積極的な勧奨を差し控えるように動くためと見られる。

### 定期接種は 保護者に戸惑いの声

定期接種の接種率は、平成17年度は約50%だった。平成18年度は約40%、平成19年度は約30%と、年々減少傾向にある。県内では、平成19年度は約20%と、最も低い水準に落ちた。これは、ワクチン接種の積極的な勧奨を差し控えるように動くためと見られる。

定期接種の接種率は、平成17年度は約50%だった。平成18年度は約40%、平成19年度は約30%と、年々減少傾向にある。県内では、平成19年度は約20%と、最も低い水準に落ちた。これは、ワクチン接種の積極的な勧奨を差し控えるように動くためと見られる。



定期接種の接種率は、平成17年度は約50%だった。平成18年度は約40%、平成19年度は約30%と、年々減少傾向にある。県内では、平成19年度は約20%と、最も低い水準に落ちた。これは、ワクチン接種の積極的な勧奨を差し控えるように動くためと見られる。

定期接種の接種率は、平成17年度は約50%だった。平成18年度は約40%、平成19年度は約30%と、年々減少傾向にある。県内では、平成19年度は約20%と、最も低い水準に落ちた。これは、ワクチン接種の積極的な勧奨を差し控えるように動くためと見られる。